

## PD\_ISOGEN V7.2 新機能 / 変更点 / 不具合対応

---

2003-07-24

## 1 PDS と ISOGEN バージョン

PDS	PD_ISO	PD_ISOGEN	ISOGEN(Aliasバージョン)
Ver6.4.1	06.04.01.39	06.04.01.11	7.17.9
Ver7.0.0	07.00.00.29	07.00.00.26	8.9.9
Ver7.1.0	07.01.00.15	07.01.00.12	8.9.9
Ver7.2.0	07.02.00.17	07.02.00.15	8.10.5

2003/7/24 付けの最新バージョン

## 2 新機能

### 07.02.00.10 で追加

CR 37907

Schedule Batch Job 処理では、Save Sheet Extraction Data オプションが ON の時は project/design database に情報を書き込むため、抽出時には phtable\_113 の revision date を更新するようにしました。

### 07.02.00.08 で追加

CR 39471 、 TR 14478

Intergraph オプション No.76 を追加しました。

このオプションは、ボルトの材料ディスクリプションのソースデータの取り出し方法に関連します。他のコンポーネントには有効ではありません。さらに Bolt Commodity Code Table が Project Data Manager - Revise Model Data Command - Material Takeoff オプションで選択されている時のみ適応されます。Batch 抽出では、エリア内の最初のモデルの設定(Type63)が参照されますが、このオプションはコモディティコードのレポートには有効ではありません。ボルトのディスクリプションのみ有効となります。

0 – ボルトの材料ディスクリプションを検索するために Material Takeoff オプションの Souce of Material Description コマンドで指定されているコモディティコードが使用されません。

"System"に設定されている場合： システムコモディティが使用されます

"Size Dependent"に設定されている場合： Bolt Commodity Code Table が使用されます

1 – Material Takeoff Option フォームの Commodity Code オプションが"Size

Dependent" に設定されている時、Bolt Commodity Code Table からコモディティコード検索が行われます。

CR 28450, 29804, 34347

PD\_Design でウェルドのオーナーシップをユーザ側で設定可能になりました。 Intergraph Option 62 のポジション C=0 は以下のように変更されました。

Intergraph Option 62 ポジション C ライン分割点のウェルド表示

0 – PD\_Design で設定されたウェルドのオーナーシップを持つコンポーネントが存在する

シート上に表示されます。接続されているコンポーネントにウェルドのオーナーシップが設定されていない場合、ウェルドは East、North、Elev 座標の順で座標値が最も高いコンポーネントが含まれるシート上に表示されます。

### **07.01.00.XX**

CR 29352

ラベル No.987 が定義されている場合、dynamic detail sketch は、コネクトポイント情報を表示させるためにコンポーネントのコネクトポイントにラベルを配置します。

CR 25951

抽出時にモデルからダイナミックスケッチを作成するための機能が detail sketch に追加されました。あらかじめ定義されたセルを使用した機能は、引き続き利用可能です。

Dynamic detail sketch は、.ddf ファイルで定義されている SKETCH-SIZE に調整されます。これによりクロスリファレンスと重なる場合がありますので、Intergraph は重なりを防ぐために CROSS-REFERENCE の設定をコーナーにするように推奨しています。

CR 25827 (21469 、 9700)

Intergraph オプション No.75 が修正されました

このオプションスイッチでは、アイソ図上のマテリアルリストにパイプの長さか本数どちらかをリストすることが出来ます。

0 – パイプを長さで集計します

1 - パイプに対して PDS\_sort\_code 属性が設定されている場合または、パイプの片側の端部が Male ではない場合に本数で集計します

NOTE:

PDS\_sort\_code (table 50, カラム 16) 属性は、パイピングスパックのコモディティデータで値を定義します。

Intergraph オプション No.72 は、固定長パイプ(flanged pipe, bell, spigot pipe etc)を 1 ピースとしてレポートするか、サポートやオレットで分割するかをコントロールします。

0 – パイプサポートやオレットがある場合、固定長パイプに分割されます

1 - パイプサポートやオレットがある場合でも 1 ピースとして固定長パイプが集計されます。

NOTE:

Intergraph オプション No.72 = 1 に設定されている場合、パイプを本数で集計するために Intergraph オプション No.75=1 に設定しなければなりません。

このオプションが 1 に設定されていて且つ、フランジ付きパイプにオレットが配置されている場合、ウェルドオレット(WOL)は ISOGEN シンボル WTBW にマップされ、IDF ファイルにはカップリングのレコード 126 として記述されます。

(対応バージョン : 07.00.00.17 and 06.04.01.32)

CR 25509 (11427)

パイプラインのデフォルト色(赤)を DDF ファイルアタッチ後に黄色に変更します。ISOGEN は指定した要素に色を割り当てるために DDF ファイルの以下のセクションに新しいパラメータを追加しました。

PIPELINE-ATTRIBUTES  
PIPELINE-ATTRIBUTES-SPECIAL  
PIPELINE-ATTRIBUTES-DOTTED  
FITTINGS-GENERAL  
FITTINGS-SPECIAL  
FITTINGS-UNDIMENSIONED-BRANCHES  
MISC-ITEMS

フォーマットは、キーワード COLOUR に続いて色番号(インデックス)を記述します。

FITTINGS-GENERAL  
N.S. INCH  
N.S.RANGE 0 2 THICKNESS 1 0.30 LAYER 10 SCALE 150 COLOUR 3  
N.S.RANGE 2.5 \* THICKNESS 1 0.30 LAYER 10 SCALE 200 COLOUR 4

対応バージョン : ISOGEN version 8.8.4. (07.00.00.17 も同様に対応)

CR 24601

Intergraph オプション No.62 ポジション A に値 2 を追加しました。

各溶接ポイントに PDS により生成された User Defined Weld Number を出力します。 Intergraph オプション No.62 ポジション A

0 - PDS により生成された Weld Number を表示しません

1 - PDS により生成された System Weld Number を表示します

2 - PDS により生成された User Defined Weld Numbers を表示します

PDS により生成された System Weld Number は、各溶接点にロードされます。User Defined Weld Number には、ラベルナンバー355 によって定義されたセグメントの Weld ID が含まれています。WeldID-Weld Number となります。(07.00.00.16 も同様に対応)

#### CR 23814

Tangential Side-Outlet 180 degree Return, 3-Way Diverter Valve のようなマルチポート・コンポーネントの表示が可能になりました。これらの SKEY は PDS to ISOGEN Symbol Map ファイル内で、XF\*\*や XV\*\*に設定しなければなりません。コンポーネントはアイソ図中の MTO ではそれぞれ、'Fittings'や'In-Line Items'ヘッダーの下にリストされます。

バイオケミカル・フィッティングに対して、'BIOCHEM FITTING' セクションが PDS to ISOGEN Symbol Map テーブルに追加されました。

ISOGEN version 8.8.4.以上。(07.00.00.17 も同様に対応)

### **3 不具合対応**

#### **PD\_ISO 07.02.00.17**

TR 45024

オレットタイプの分岐部品が接続されているパイプラインの溶接番号が表示されない

TR 44200

枝管側に分岐部品のオーナーシップを設定しているにも関わらず、母管側にユーザ定義属性が .b ファイルにレポートされます。

**Note:** この修正により、枝側サイズをベースとしてオレットタイプの分岐部品は両方の溶接がレポートされます。

#### **PD\_ISO 07.02.00.16**

TR 43743

オレットコンポーネントの溶接の情報が BOM 上で間違っ表示されてしまう

TR 41401

オプションファイル内の LINE\_ID\_DEFINITION の定義にユーザ定義属性が含まれていると、抽出時に E33 エラーが発生する

#### **PD\_ISO 07.02.00.07**

TR 39089

メトリックプロジェクトに対して Dynamic Detail Sketch を使用する場合、スケッチが左上に正しく表示されずに、図面枠の左下に配置されてしまう。

ISOGEN version 8.10.3 以上(新しい dgnplot.dll が必要)

#### **PD\_ISO 07.02.00.02**

TR 33268

スペシャリティアイテムが ISOGEN mto neutral file から欠落してしまう。但し Style2 のマテリアルリストには表示されます。

ISOGEN version 8.10.3.以上

TR 30041

スレッドパイプがスレッドキャップに接続している場合、このパイプは部品番号 2 番としてマテリアルリストに表示されるが、アイソ図上に表示されません。

ISOGEN version 8.10.3.以上

TR 29030

特定のラインにおいて、Isogen オプション No.123=500 に設定した場合、寸法や部品番号が表示される場所に文字が表示されてしまう。

ISOGEN version 8.10.3.以上

TR 28341

South から North 方向の向きに 6Q5P59 を配置していると、表示がおかしくなる。コンポーネントのポート 1 が間違っています。コンポーネントの CP1 で Line ID が切り替わっていました。

ISOGEN version 8.10.3.以上

TR 26848

スロープ表示が正しく表示されません

ISOGEN version 8.10.3.以上

TR 26277

マルチポートバルブに接続しているシンボルが正しく表示されません

ISOGEN version 8.10.3.以上

TR 25212

Rweld から始まる分岐部に Field fit Weld が設定されていると Shop weld で表示されてしまいます。

ISOGEN version 8.10.3.以上

**PD\_ISO 07.02.00.01**

TR 33297

バルブに対してセンターライン寸法(Isogen switch 81)が正しく動作しません。バルブにはセンターに寸法線が発生するのではなく、エンドポイントから寸法線が発生します。 ISOGEN

version 8.9.9.以上

TR 33086

タップ付きオリフイスフランジに対して、タップの配置場所が間違っ表示されてしまう。タップがフランジから大きく離れて表示されてしまいます。

ISOGEN version 8.9.9.以上

**PD\_ISO 07.01.00.XX**

TR 29747

以下の接続においてフランジがアイソ図面に表示されません。

BLExMTE swage が FTE x RFFE フランジに接続されています。反対側は RFFE のスペシャリティに接続しています。スペシャリティの CP2 側は同じ端部形状です。オプションファイルの以

下のスイッチを修正する必要があります。

1. Intergraph 41 = 1 に設定して multiple end prep component ロジックを使用可能にする
2. Intergraph 11 = 10 uor に設定

TR 29579

ヘッダーの同じ位置にオレットが2つ以上配置されている場合、モデルの溶接番号が異なっていたとしてもアイソ図上に2つの同じ溶接番号が表示されてしまいます。

(version 07.00.00.21 、 06.04.01.35 も同様に対応)

TR 29291

MTO ニュートラルファイルが Unix フォーマットで出力されているが、ユーザはマテリアルコントロールシステムヘデータをロードしたいので DOS フォーマットで出力したい

TR 29115

スロープラインに1つの分岐に RPAD が配置されています。RPAD のスタート点は East-North 座標が一番高くなっている場合、BOM に出力されません。

(07.00.00.21 、 06.04.01.34 でも同様に対応)

TR 28162

PDS6.4.1 から PDS7 へアップグレード後、6.4.1 で抽出出来たラインの多くが PDS7 で失敗する。抽出に失敗したラインの多くは、同じ状態でした。

TR 26098

OLD SKEY 01HG をベースに 50 以上のシンボルが存在する場合、シンボルライブラリのアップグレード中にエラーが発生する

(07.00.00.18 、 06.04.01.33 も同様に対応)

TR 26085

エキセントリック・レジャーが含まれるスロープラインを column line reference オン、グリッドをオンで抽出すると、アイソ図上に FAIL メッセージが発生する。

ISOGEN version 8.9.1. 以上

TR 25914

パイプ上にサポートやオレットが配置されている場合、さらにスタイル 2 の MTO にパイプの重量を出力している場合、長さは正しく表示されますが BOM 上のパイプ重量が正しく表示されません。

(07.00.00.17 、 06.04.01.32 も同様に対応)



## TR 25909

以下の状況において、マテリアルコントロールファイル(.bom)内のパイプの本数が正しく出力されない。

- パイプに RPAD が配置されている
- MLD に spool prefix (-7 レコード)をマップしている
- メトリックプロジェクト

spool prefix が MLD ファイルにマップされている場合、RPAD から始まるパイプが.bom に出力されません

(07.00.00.17 、 06.04.01.32 も同様に対応)

## TR 25683

ポンプ上の 308.5 度で配置されているノズルから始まるラインで structural column reference option を選択して出力すると失敗する。ノズルが 270deg で配置されてる場合は、正しく抽出されます。

(特定のモデル)

## TR 25653

ブランチラインにソケット - ニップル - フランジ - ゲートバルブ - タップ付きブラインドフランジで接続され、ブラインドフランジのタップから計装インジケータが接続されている場合、以下のようなエラーが発生します。

```
35:1061) WARNING - NO DIRECTION GIVEN FOR UNDEVELOPED FITTING TAP
          - DIRECTION ASSUMED FROM CO-ORDINATE DATA
ISOGEN version 8.9.1. 以上
```

## TR 25625

パイプラインのエンドでフランジとタップ付きブラインドフランジが接続されていて、ブラインドフランジでラインナンバーが変更されている場合、エラーが発生します。

Error"@#, 1521, 12, 16, 0, 0, 0, 0" appears in the

\*.err file and also gives ris error in the job file.

## TR 25577 (25582)

アイソ図上のティーがエルボシンボルに置き換えられてしまう。IDF ファイルには、レコード 45 と 46 は存在するが、47 が存在しません。

(07.00.00.17 も同様に対応)

## TR 25528

実線の分岐部から点線のオレットまで抽出するときに、エラーが発生します

"(35:2012) DATA FAULT, DOUBLEBACK PIPE"  
(07.00.00.17 、 06.04.01.32 も同様に対応)

## TR 25525

ウェルドサマリーレポート(\*.w)内の溶接番号が 15 文字以上になるときに、正しく出力されません。  
ISOGEN version 8.8.4.以上。(07.00.00.17 も同様に対応)

## TR 25321

インシュレーションやヒートトレースをスロープラインに対して設定している場合、スロープラインのグラフィックも正しく表示されません。  
ISOGEN version 8.7.0 以上 ( 07.00.00.16 も同様に対応 )

## TR 25207

Pdtable\_12 に最大 24 個のユーザ定義属性を追加して、合計 101 個の属性になった場合、Iso 抽出に失敗する。(version 07.00.00.16 も同様に対応)

## TR 24987

スペックインプライドマテリアル付きのバルブが含まれるラインを抽出すると、メインのコンポーネントが 2 番目のシートに表示 / リストされているのに、インプライドマテリアルは最初のシートにリストされてしまう。またアイテムのタグがコンポーネントのグラフィック上に表示されているのに、インプライドアイテムは BOM とマッチしません。  
ISOGEN version 8.7.0 以上

## TR 24941

デフォルトで提供されている SKEY を再定義すると正常に動作しません。KEY NI\*\*は、Flangeolet のために再定義しました。1 つ目のシンボルは、正常に出力されましたが、次の Flangeolet はジェネリックコンポーネント(NC\*\*)で抽出されてしまいます。  
ISOGEN version 8.8.4.以上 (version 07.00.00.17 も同様に対応)

## TR 24939

FrameWorksPlus で gridline reference data file を作成しました。このファイルでは、カラム名に対して 15 文字までサポートしていますが、FrameWorksPlus では 24 文字サポートしています。  
PD\_SHELL 07.00.00.16 以上 (version 07.00.00.17、06.04.01.31 も同様に対応)

この TR は、TR30318 によって制限されています。Fw\_proj.dat ファイルに 24 文字のカラム名が含まれる場合、Iso はそれらを認識することが出来ません。

## TR 24714

レジューシングクロスのラインを抽出すると、クロスセカンドサイズが BOM に表示されません。

(version 07.00.00.17 も同様に対応)

## TR 24371

MIX プロジェクトにおいて、オプションファイルでボルト径(Inch)、長さ(MM)に設定している場合、MTO ニュートラルファイル(.b#)では、ボルト径が MM になってしまいます。

## TR 24311

インプライドコンポーネントが BOM に正常にレポートされません。インプライドアイテムは、ナットで(ボルトやガスケットではない)スベックには、オプションコード + 5000 を使用しています。PCD には、Shop fab カテゴリとして定義していますが、Iso には Erection(Field)としてレポートされてしまいます。

## TR 24136

Intergraph オプション 71=00012 に設定している場合、ライン端部の座標値は正常に抽出されませんが、structural grid reference からの寸法値が間違っています。

(versions 07.00.00.17 、06.04.01.29 も同様に対応)

## TR 23940

.b(mto neutral file)ファイル内のボルト径のインチマークが重複してしまいます。0.5"のボルト径のレポートが 0.5'"として出力されてしまいます。

## TR 23765

Intergraph オプション 71=2 に設定している場合、スローブラインを Column Line Reference 付きで抽出すると失敗します。このオプションを 1 に設定すると、正常に抽出されます。

ISOGEN version 8.8.4.以上 (versions 07.00.00.17、06.04.01.29 も同様に対応)

## TR 23690

複数の端部形状を持つティーが正しく表示されません

ISOGEN version 8.8.4.以上 (version 07.00.00.17 も同様に対応)

## TR 23425

Structural Column Reference 機能を使用して Iso を抽出しています。Intergraph オプション 71=12 に設定すると、ほとんどの Iso 図の左上に FAIL メッセージが表示されてしまいます。また寸法は左下コーナーから表示されてしまいます。

## TR 23417

Plant Coordinate System with large coordinates を使用するために Intergraph オプション 18=4 に設定して抽出するとパイピングモデルの値に対応しない不正な座標値が出力されます。

## TR 23235

Iso 図上に FAIL メッセージが表示されます。ISOGEN オプション 34 の設定を変更することにより、FAIL なしで抽出することが出来ますが、グラフィックはモデルとは異なります。.err ファイルにはエラーは無く、PLOTTED の前に FAIL が表示されます。

## TR 22293

スプール番号が 3 桁に達する場合、BOM 上に正常に表示されません。  
ISOGEN version 8.8.4.以上 (version 07.00.00.17 も同様に対応)

## TR 21923

Drawing Definition File(.ddf)ファイルのウェルドシンボルのレベル設定が有効にならない。  
ISOGEN version 8.8.4.以上。(version 07.00.00.17 も同様に対応)

## TR 21730

Default Set のボーダーファイルは、Iso 抽出時に無効になってしまいます。シードファイルにアタッチされているボーダーファイルが代わりに出力されてしまいます。

## TR 21181

'USER\_DEFINED\_IMPLIED\_ITEM\_BOM'の設定により、インプライドアイテムのマテリアルクラスがレポートされるように定義しています。スペックブレイクされているフランジ間のボルトに対して、PMCのレポートは、ボルトのオーナーシップにかかわらず、常に higher west, south, lower elevation のフランジになってしまいます。

## TR 19831

ATEXT-221 が 13 文字以上の場合、ATEXT-222 のスロープの出力に影響を及ぼします。  
ISOGEN version 8.8.4.以上。(version 07.00.00.17 も同様に対応)

## TR 19739

Y(ワイ)の 3 つレッグの内、2 つ未満のレッグにパイピングが接続している場合、Y のシンボル表示がおかしくなります。

TR 5424 (279800853)

バンドに続くパイプが僅かに傾斜している場合、バンドのスキューが正しく表示されません。  
ISOGEN version 8.7.0以上。(version 07.00.00.15 も同様に対応)

## **4 不具合未対応**

Intergraph 社で不具合として確認されていますが、PD\_ISO V07.02.00.17 で未対応のものをリストします。

### **4-1 抽出時エラー**

TR 29863

Intergraph オプション 71=1 または 2 に設定(grid or column line reference オン)の場合、常に Iso 抽出に失敗します。Intergraph オプション 71=0 に設定すると、ラインは正常に抽出されます。

TR 25320

キャップ上の 2 箇所に Weldolet(WOLCOS)を配置したときはいつでも、エラー 104 "Error running ISOGEN"が発生します。Weldolet を 1 つ削除すると、ラインは正常に抽出することが出来ます。

TR 25157

North 方向から 25 度の角度でグリッドラインが配置されています。同じ角度でパイプが配置されていると、Iso 抽出時にエラー(35:1102)が発生します。 "Unable to orientate reference line for column line".

## 4-2 寸法表示の不具合

### TR 29030

インストゥルメントが含まれる特殊なラインに対して、ISOGEN オプション 123 ポジション C=1 から 5 に設定すると、寸法値が表示される場所にテキストが表示されてしまう。C=0 に設定すると正常に抽出されます。

### TR 26102

ISOGEN オプション 9 の B=1、Intergraph オプション 7=1 の場合、傾斜した寸法線がアングルバルブを含んでしまいます。

### TR 25524

ISOGEN オプション 9 B=1 に設定すると、ポジション A の設定に関わらず、フランジ接続の Flame Arrestor の寸法は Arrestor 自身の寸法(例 1'6", 2'0")の代わりにガスケットの寸法(例 1/6", 1/8)になってしまいます。ポジション B=0 に設定すると、ポジション A の値(0,2,3,4)は正常動作します。

### TR 19265

タップ付きのブラインドフランジに endolet が配置されている場合、Isogen オプション 9=0,3 の場合、endolet に寸法線が表示されません。Isogen オプション 9=4、121=0 の時には寸法線が表示されます。

### TR 25610

スキューしたバイパスを抽出すると、バイパスの全体寸法として 6'9.5/16"が表示されます。パイピングモデルでは、6'9.3/8"になっています。座標軸に沿って回転させると、6'9.1/4"になってしまいます。

### TR 6581 (279900527)

エキセントリックレギュレーサがスロープラインにある場合、寸法値がおかしくなる。

### TR 11154

Non-radial weld から発生するパイプの寸法が間違っている。縦方向のオフセットがパイプ寸法に追加されてしまう。

### 4-3 ISO 表示の不具合

#### TR 23229

インストゥルメント・インジケータの CP1 で attribute break した場合、インタラクティブ抽出において、attribute break のグラフィックが間違っ表示されます。このラインをバッチ抽出すると、two disconnected segments のエラーが発生してグラフィックは表示されません。

#### TR 24940

フランジ付きパイプでバイパスされているラインが正常に抽出出来ない。バイパスの一方のエンドが、ヘッダーから離れてしまいます。

#### TR 10582

スロープライン - エクセントリックレジューサ - ティー - エクセントリックレジューサ - スロープラインの順で接続されている場合、エクセントリックのオフセットが正常に抽出できません。

#### TR 29705

パイプにインストゥルメントのインジケータが接続されています。そして分岐部は、座標軸に沿った角度になっています。この様な状況で、Intergraph オプション 28=1 の場合、スキュー表示がおかしくなります。

#### TR 28753

Intergraph オプション 67=0 の時に、RWELD に接続している点線の分岐部にピースマークが表示されてしまう。

#### TR 27348

Equipment nozzle connection note では、2mm オフセットされて表示されています。従って Iso 図上の表示は 2mm 短くなっています。Intergraph オプション 7 を変更しても結果が変わりません。

#### TR 27194

PMC 内のガスケット厚が 0.0394in の時、equipment continuation notes が Iso 図上に表示されません。Intergraph オプション 51(Nozzle continuation Notes)を変更しても解決しません。

#### TR 26483

Intergraph オプション 75=1 に設定して Bell&Spigot パイプを使用するとティー(ラテラル)の End prep のシンボロジ - が正しく表示されません。



## TR 21887

ISOGEN オプション 19=1 に設定している場合、スロープラインの fall ratio が正しくありません。

## TR 18296

システムは間違った位置にインスツルメント・タグを配置してしまいます。そして ISOGEN オプション 9=110 の時は、ラベルが煩雑になります。

## TR 16709

Intergraph オプション 67 の設定により、ユーザ定義の non-radial ブランチニップルの表示がおかしくなる。Intergraph オプション 67=0 の場合、正常の表示されます。67=1 の場合表示がおかしくなります。

## TR 30041

端部形状が PE x MTE のパイプがキャップ(FTE)に接続している場合、パイプが BOM に表示されません。キャップが表示されない場合にはパイプは表示されます。

## TR 29370

Iso 上のインタクシオンベンドのパーツ番号が間違っ表示されます。

## TR 28967

スロープラインに対して、ロジカルサポートを配置しています。このラインを Iso 抽出すると他のサポートデータも一緒に角度の値がプラスされてしまいます。

## TR 28613

水平なパイプ - フランジ - フランジ - スロープしたパイプの順で接続されている場合、水平なパイプが Iso 図上ではスロープが付いて表示されてしまう。

## TR 26942

NPD のブレークを表示させるラベルに間違った値が表示されてしまう。14in の代わりに 1in と表示されてしまいます。

## TR 26848

スロープ表示に、1/40 in. per foot の代わりに SLOPE IS 3/16 in PER FOOT と表示されてしまいます。

## TR 26117

ボールバルブとフランジ接続部でラインがブレイクされていて、配置後にバルブが回転された場合、フランジに続くラインの continuation note が Iso 上に表示されません。

## TR 25212

Rweld から始まる分岐部の溶接は、モデル内では Field 溶接にしているが、Iso では Shop 溶接になってしまう。

## TR 25209

垂直から 45 度回転しているバルブオペレータがスローラインに配置されています。Iso 抽出するとオペレータが表示されず、バルブのセンターの寸法を表示するように設定していてもバルブセンターの寸法が表示されません。

## TR 5203 (279701597)

パイピングセグメント上にタップ付きのレベルゲージがある場合、ISO 実行時にパイプラインが曲がった形状になってしまう。

## TR 23921

Fild fit weld がパイプと 45 度エルボの接続部(接続部で attribute break されている)に発生しません。Iso は 2 つのシートに分割して、溶接は両シートにドットで表示されます。

## TR 17043

フランジ - フランジ接続部の表示がおかしい。

## TR 16571

Non-radial weldolet の Iso 図上の方向がおかしい。

## TR 23636

クロスのどちらかのサイドでシート分割されている場合、グラフィックとインフォメーションは別々のシートに表示されず、同じシートに表示されてしまう。

## TR 23467

パイプが機器ノズル(BE)に接続している場合、structural column reference 機能は正常に動作せず、reference dimension も表示されません。

## TR 16117

バルブの線幅を.ddf で 0 に設定している場合、Iso 上のバルブの線幅に使用されます。線幅が 0 以外の値は正常に表示されます。線幅 0 は他の要素に対しては有効です。

## TR 22502

インストールメントインジケータ(4 IND)のマッピングを IDPL から IDFL(フランジ接続)に変更しました。Iso はフランジ部を反対側に表示してしまいます。

#### **4-4 MTOの不具合**

TR 29991

スルーボルトで接

続されているチェックバルブから始まるタップのライン上にスルーボルト接続のオリフィスプレートがある場合、ボルト長の計算結果がおかしくなります。

## TR 28153

タイトルブロックの NPD の値が間違っ表示されてしまう。タイトルブロックの設定ファイルには以下のように設定しています。

```
1, 12, 11, 0, 23, 10, 1, 219, 25 !NPD
```

4 inch のラインで 4 の代わりに 5128 と表示されてしまいます。

## TR 26068

Shop カテゴリとして定義したスタブエンド付きのラップジョイントフランジが配置される時、そのファブリケーションカテゴリを Field に変更しました。ラップジョイントフランジとスタブエンドは、Iso 図上ではエレクトションマテリアル(Shop)としてレポートされましたが、.b#ファイルではファブリケーションマテリアル(Field)としてレポートされてしまいます。

## TR 25933

インブライドコンポーネント付きの同径の補強溶接(Rweld)がある場合、システムは phtable\_212(Implied data)内の配置可能な全てのブランチを作成しようとします。

## TR 25807

パイプライン上の同じポイントで 180 度の位置にオレットを 2 つ配置しています。全てのコンポーネントは、Reportable by MTO に設定されていてカットリストは正常に抽出されています。しかし、パイプヘッダーの設定が non-mto に設定されているとカットリストが正常に抽出されません。

## TR 25651

スタイル 2 形式のマテリアルリストの行間隔が一定ではありません。マテリアルリストの行間隔は、2 - 3 行目からダブルスペースからシングルスペースに変わっています。

## TR 16713

ユーザ定義の Non-radial branch component の位置に余分なパイプがレポートされます。コンポーネントは、No-MTO に設定しています。

## TR 24251

ユーザは Size Dependant の設定を使用しています。またラップジョイントフランジのスタブエンドに対して Implied item として設定しています。Iso 抽出時に 2 つの問題が発生します。

ラップジョイントフランジとスタブエンドは異なるコモディティコードで登録しているが、同じコモディティコードで表示されてしまいます。

スタブエンドの MATERIAL ディスクリプションが抽出されず、エラー(Error Reading Material description Library)が発生します。

TR 10752

マテリアルリストがオーバーフローしたシートが 2 つ含まれる場合、シート番号が右に表示されません。

TR 15250

分岐からのパイプがヘッダーに RWELD で接続しているループラインにおいて、パイプ長が間違っていてレポートされる。ループの反対側では、パイプが点線で表示されてしまう。

#### 4-5 その他の不具合

TR 25642

ユーザは、Iso 作成時はいつも”save previous details ”オプションを使用しています。上部には同じ Detail スケッチが表示されます。スケッチのコピー数は、Iso の抽出回数に依存します。

TR 25567

パイプバンドが含まれているライン(ラインの重量は、ddf ファイルに定義されています)を抽出しようとする、パイプバンドの後の Iso の一部が ddf ファイルで定義されている重量に合わなくなり、デフォルトで wt=1 になってしまいます。

TR 29346

流れ方向の矢視の設定は、.ddf ファイル内のサポートに対して行います。矢視のカテゴリや初期値で設定されるべきで、サポートに対する設定に従うべきではありません。